

私が通っていた中学校では自殺がありました。一学年下で部活動や委員会も違い、特にかわりのない生徒だったため、その時は事の重大さに気付いていませんでした。そして去年私の祖父が亡くなりました。昔から面倒をよく見てもらっていたため、とても大きな悲しみとなりました。自分の大切な人が亡くなった時、はじめて大切な人を亡くす悲しさに気づき、自分の中学校で自殺した生徒の親や友人の気持ちを知ることができました。聖句には、「私たちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがその時には、顔と顔を合わせてみることになる。私は、今は一部しか知らなくても、その時には、はっきり知られているように、はっきり知ることになる。」と書いています。私はこの聖句を「今は分からないことも、成長していく過程で様々なことに出会い経験して、いつかは知ることができるようになる。」と理解するようになりました。生徒が亡くなった重大さに気付かなかった自分の気持ちが「鏡におぼろに映ったもの」で、祖父の死が「その時」であり、生徒が亡くなった事の重大さに気付いていなかった自分と気づいた後の自分が、「今は一部しか知らなくても、その時には、はっきり知られているように、はっきり知ることになる。」ということなのです。自分たち高校生はまだ知らないことも多くあり、悪いことをしてもなぜそれが悪いのかわからないこともあると思います。ですが、たとえ今気づくことができなくても、他者との関わりを通してそれに気付いていかなければいけないということが、この聖句から学ぶことができました。一時一時、一日一日の小さな出来事から、自己のあり方を探求していきたいです。